

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学 特別支援教育専修3回生 神吉優利奈

### 1. 単元名 「かき氷の秘密を探れ！ ―なぜ奈良県でかき氷を売る店が増えているのか？―」

#### 2. 単元の目標

- ・氷に対する認識が今と昔では異なっていることを理解し、かき氷に関わるそれぞれの立場の人の考えや思いに気付く。 (知識・技能)
- ・調べたことを相手に伝わるように表現したり、手に入れた情報から「なぜ奈良県ではかき氷が有名になったのか」という問いに答えるために考えたりする。 (思考・判断・表現)
- ・奈良県を訪れる観光客の想いに注目し、奈良県を盛り上げる1人として手に取ってもらえるように新たなかき氷を作ろうとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

本単元では、近年奈良県の観光資源としてよく見られるようになったかき氷を取り上げる。奈良県のかき氷は、2014年に氷室神社で初開催された「ひむろしらゆき祭」をきっかけに、多くの飲食店で販売されるようになり、工夫の凝らされた多様な種類があるもの、手軽に飲食店で食べられるもの、「ひむろしらゆき祭」や「献氷祭」などの宗教が背景としてあるものと知られるようになった。

奈良時代では貴重とされた氷が現代では当たり前になり、現代の奈良県では観光資源として多くの人に届けられている。製氷業者や氷室神社の宮司、飲食店のかき氷を売る人、奈良県を盛り上げようと尽力してきた人など、様々な人の繋がりがあって多くの店のかき氷が提供されている。氷室神社で神事や一般向けの行事が行われているという今の形になっていることに気付かせ、地域への愛着を育みたい。

##### (2) 児童観

児童の課題の1つとして、難しい課題に遭遇したときに諦めてしまいがちであることが挙げられる。児童の学習の様子から、疑問点を認識できていない、自分の考えを整理したり相手に伝わりやすいように言語化したりすることに難しさがあることから、問題を解決するための考え方や考えの整理の仕方が身に付いていないと考えられる。

そこで、問題解決型の探求学習を行うことによって、問題解決のために疑問点を明確にしてから情報収集をすること、収集した情報を分析して考えることを通して、自ら考える力を付ける必要があると考える。

また、自分の住んでいる県に対する意識にも課題がある。社会での奈良県の歴史や地理に関する学習、家庭科での郷土料理に関する学習を行ってきており知識は身につけている。しかし、奈良県の良

さや県外の人にも伝えたいと思うことを尋ねると自分の意見として伝えられる児童は少ない。本単元の学習を通して奈良県の良さを感じ、他の人に伝えられるようにさせたい。

### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず始めに、単元の導入で本単元の素材である「奈良県のかき氷は有名になってきている」ことを児童に提示する際に、なぜ有名になっているのかという疑問や、確かめたいという気持ちを引き出したい。そのために、児童に導入時点で知っていることを挙げるよう促し、知らないこともあることに気付かせる。ここで持った疑問や確かめたい気持ちが自分の住む街への興味・関心を高めることに繋がると考える。

次に、「なぜ奈良県でかき氷を売る店が増えているのか？」という疑問に沿って資料を読んで考える活動では、大まかにかき氷に関して奈良時代の話や氷室神社、献氷祭、ひむろしらゆき祭などの内容を掴ませたい。このとき、かき氷が沢山売られるようになったきっかけや理由を中心に読み取るように促し、かき氷に関わる人の想いや歴史が書かれていることに気付かせる。

そして、資料を読む活動でかき氷と繋がりがあると分かった、氷室神社とボランティアで運営されている「ひむろしらゆき祭」に焦点を当てて学習を深める。話を聞く前の時間では、疑問点やさらに知りたいことを明確にするために、話を聞くポイントと質問を考える。その後、聞いた話の内容を分析・整理してプレゼンテーションの形で表現する。今までに得た情報を使って「奈良県のかき氷はどのようなものか」を説明するように促し、かき氷に関わる人の想いや歴史を自分の言葉で表現させたい。

最後に、これまでの学習を振り返った上で自分も奈良県を盛り上げる一人として、県外・海外の人に紹介したいものに着目して、自分が奈良県を訪れる観光客食べてほしいと思うかき氷を考える。本単元で学んできた氷室神社・製氷業者・店でかき氷を売る人や奈良県を盛り上げようと活動している人の想い、また奈良県へ来る観光客の想いをさらに理解し、奈良県への愛着を高める手段としたい。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性…奈良県のかき氷は、神社や製氷業者、店で販売する人と客など多くの人と繋がりがあがる。観光資源として有名にするには、人の繋がりを大切にすることが重要である。

連携性…多くの人協力することで人々がかき氷の背景にある文化や歴史を伝え、奈良県を盛り上げようとしている。市民の1人として、自分の住む街を盛り上げるには協力することが必要である。

#### ・本学習で育てたいESDの資質・能力

##### クリティカル・シンキング

資料を読むだけでなく実際にかき氷と繋がりのある人に話を聞くことで、「奈良県のかき氷を沢山のの人に伝えたい」という信念をもって行動している人がいることに気付く。

##### システムズ・シンキング

かき氷の歴史や宗教観を調べたり、実際にかき氷を広めようと行動している人の話を聞いたりすることで、他の人にも知ってほしいという気持ちで行動することで後世に受け継がれていく。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

文化を尊重できる

かき氷を食べることで夏の暑さを吹き飛ばせるかき氷の良さを伝えようとする行動を取らなかったら、街に根付き長く続く文化にはならない。

幸福感に敏感になる 幸福感を大切にする

「かき氷」が当たり前食べられるのは、昔の人が氷を食べることで夏の暑さを吹き飛ばせることを伝えたからである。また、現在、奈良県内の多くの場所をかき氷を食べられるようになったことも、奈良県を盛り上げようとする人々の行動があるからである。

・ 達成が期待されるSDGs

目標 4 「質の高い教育をみんなに」

目標 11 「住み続けられるまちづくりを」

目標 17 「パートナーシップで目標を達成しよう」

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①かき氷に関わる歴史や物への人の認識は時代によって変化することを理解している。 ②調べたり話を聞いたりする活動から、それぞれの立場の人の考えや思いに気付いている。	①フィールドワークと資料を読む活動を通して感じた疑問をもとに、課題を設定し、見通しを持てる。 ②相手に伝わりやすいように話の筋道を立てて表現したり、適切な表現方法を選択したりしている。	①課題を解決するために、疑問を明確にして調べて自分なりに考え、進んで探究学習に取り組んでいる。 ②奈良県を盛り上げようとしている人々の想いを知り、自分たちに見えることを見つけようとしている。

5. 単元の指導計画（全 15 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△）備考（・）
見 つ め る ① ― ③	<p>○奈良県でかき氷を売る店が増えていることについて、知っていることを出し合う。</p> <p>・「奈良県でかき氷を売る店が増えている」ことを聞き、知っていることを全体で共有する。</p> <p>○東向商店街でかき氷が提供されている店を調べる。（フィールドワーク）</p> <p>・東向商店街を歩き、店やかき氷の特徴を調べる。</p> <p>・かき氷が提供されている店がどれだけあるのかを調べる。</p> <p>○フィールドワークで分かったことを確認する。</p> <p>・フィールドワークで分かったことをグループで確認する。</p>	<p>・児童がイメージしやすいように、かき氷を売っている店や実際に売られているかき氷の写真を提示する。</p> <p>・意見を言いやすいように、些細なことでも良いと伝える。</p> <p>・何に注目して調べると、店で売られているかき氷や店の特徴が分かるかを考えるように促す。</p> <p>・グループを作り、協力して調べられるようにする。</p> <p>・ワークシートを使って、分かったことを整理できるようにする。</p> <p>・前時のワークシートを見ながら確認するよう促す。</p> <p>・もっと調べたいと思えるように、「奈良県でかき氷を売る店が増えている」の理由は分かったか問いかける。</p>	<p>・フィールドワーク時に使うワークシート △ ウ①</p> <p>・フィールドワークで使ったワークシート △ イ①</p>
調 べ る ④ ― ⑧	<p>○奈良県のかき氷について、資料を使って調べる。</p> <p>・資料を読んで、なぜ奈良県ではかき氷を売る店が増えたのかについての情報を掴む。</p> <p>○実際に活動している人に聞きたいことを整理する。</p> <p>・フィールドワークと資料を読む活動では分からなかったことから、聞くポイントと質問を考える。</p> <p>○実際にかき氷に関わっている人の話を聞く。</p> <p>・氷室神社の宮司である大宮守人さんから話を聞き、氷室神社の歴史や奈良時代の人々の氷に対する考え方、奈良県への想いを知る。</p> <p>・ひむろしらゆき祭、かき氷ガイド製</p>	<p>・かき氷を売る店が増えたきっかけや理由を中心に読み取るように促す。</p> <p>・疑問を解決するため、どのような情報が必要かを考えるように促す。</p> <p>・いつ、どこで、誰が、何を、なぜといった視点から考えると質問を作りやすいことを示して、児童が知りたい情報を引き出せるように支援する。</p> <p>・前時で考えた聞くポイントを確認させ、意識しながら聞くように伝える。</p>	<p>・記事を印刷した資料 △ イ① △ ウ①</p> <p>・聞くポイントと質問を記入するワークシート △ ウ①</p> <p>・前時で記入したワークシート △ ア① △ ア②</p>

	作委員会で活動している方から話を聞き、ボランティアを始めた理由やボランティアを続けている理由、奈良県への想いを知る。		
深 め る ⑨   ⑫	○資料を読んで分かったこと、聞いた話の内容を整理し、まとめて発表する。 ・内容を整理し、まとめ、これまでに得た情報から「奈良県のかき氷はどのようなものか」班ごとに考える。 ・考えたことをプレゼンテーションの形で班ごとに発表する。	・今までに得た情報を使って「奈良県のかき氷はどのようなものか」を説明するように促す。 ・目的を持って相手に伝える方法を選択できるように、プレゼンテーションはパワーポイントを用いて行う、模造紙に書いて発表するといった例を提示する。	・これまでに使ったワークシート △ ウ① △ イ②
広 げ る ⑬   ⑮	○これまでの学習を振り返り、自分たちが地域を盛り上げるためにできることを考える。 ・自分が奈良県を訪れる観光客に食べてほしいと思うかき氷を考え、絵に表す。完成したものを氷室神社へ持っていき、貼り出してもらおう。	・これまでに使ったワークシートや発表の資料を見て振り返るように伝える。 ・これまでの学習を振り返った上で活動を行うことで、「奈良県の良いところを知ってほしい」、「奈良県を盛り上げたい」という想いを、自分たちも同じようにもっていることに気付かせる。	・これまでに使ったワークシートと資料 △ ウ②

## 参考資料

- 「氷室神社について」. 氷室神社 <<https://himurojinja.jp/about/>> (参照日 2025年1月14日)
- 「詳細 大宮守人」. 奈良ひとまち大学ホームページ. <<https://nhmu.jp/people/28198>> (参照日 2025年1月14日)
- 「10年で「かき氷の聖地」に 新たな観光資源へと成長したきっかけは…神社での新しい「祭」だった」. まいどなニュース. <<https://maidonanews.jp/article/14881068>> (参照日 2025年1月14日)
- 「氷室は天然の冷蔵庫！詰め込んだのは、冷たい氷や雪だけでなく熱い職人魂も！」. 年中行事情報館. <<https://event365days.net/archives/4826.html>> (参照日 2025年1月14日)
- 氷屋純水. 「製氷・冷蔵・冷凍業の守り神 奈良氷室神社～氷業の守護神を尋ねて～」. 氷の博物館 <<https://www.junpyou.or.jp/junpyou/himurojinja/index.php>> (参照日 2025年1月14日)